

米日教育交流協議会代表 丹羽筆人

在米親子にアドバイス

## 日米の教育事情

日本語で学習する意味を考える

現地校の新年度が始まり、新しい生活パターンも軌道に乗ってきた頃でしょう。この時期は、進学や進級によって現地校の課題やクラブ活動などが厳しくなり、日本語補習校（以下、補習校と表記）の宿題をする時

# 日本語で学習する メリットはたくさんある

間が少なくなったり、補習校の欠席が目立つようになったりする子どもが現れます。この傾向は、どちらかというと帰国予定のない子どもに目立ちます。このような状況が続くと、補習校の授業内容が理解しにくくなり、日本語での学習意欲が低下し、ともすると補習校をやめてしまうことにもつながります。補習校をやめれば、当然ながら日本語での学習時間が少なくなりますので、できれば継続したいものです。

補習校をやめなくなる時期は、子どもによってさまざまです。もちろん個人差がありますが、小学4年生になって少し経った時、小学6年生の秋以降、中学1年生になって少し経った時、中学3年生の秋以降などが目立ちます。これは日本の教科書の学習内容が難しくなる時期、現地校で上級学校に進学する時期に一致しています。このほか、小学校や中学校卒業という節目も、補習校をやめることが多い時期です。

そんな時に、子どもに補習校を継続させたいと思うのなら、親子で日本語で学習する意味をじっくり話し合う必要があります。その際には、子ども自身が置かれている状況を具体的にイメージさせることが大切です。日本に遊びに行った時、おじいちゃんやおばあちゃん、親戚の子どもたちと会話する時などに日本語が必要なことは子どもにも分かっているでしょう。「日本語ができる」と、日本にいますます増加しています。日本

というのは、私が自分の子どもに言い続けてきた言葉です。実際、日本語が使えることによつて、日本で多数の友人ができてきたし、米国の大学生になつてからも学内で日本人留学生とすぐに仲良くなれるので、本人もそれを実感しています。また、「日本で生活するようになることになつた時に日本語ができる」といいよ」とか、「日本企業で勤めたり、日本人と一緒に仕事をしたりする場合には、日本語を読んだり書けたりすると有利だよ」などのように、大人になつてから日本語が使えることのメリットを感じることにすることを説明するのも大切です。

近年、日本語を学ぶ外国人が語クラスを導入する高校も増えています。大学にも日本語クラスがあり、日本語学科も人気です。高校の日本語AP（※）クラスが大学のクレジットに、また補習校の履修単位が高校のクレジットに認められる場合があります。日本語の学習は大変ですが、メリットはたくさんありますので、ぜひ頑張つてほしいものです。

※AP = Advanced Placementの略。高校において大学の授業を先取り受講すること。高校と大学との双方のクレジットとなる。

（今回は10月第4週号掲載）

米日教育交流協議会のウェブサイトに、当コラムのバックナンバーもお読みいただけます。  
UJFEC Website: [www.ujfec.org](http://www.ujfec.org)